

## 東日本大震災発生から2ヶ月 CIVIC FORCE の 活動報告



### 「生きていてよかった」-被災地に広がる格差

南三陸町の避難所の中には、3日に1日程度しか支援物資を入手できない場所がありました。

支援が行き届いていない場所がないか、Civic Forceのスタッフが足を使って調べる中で出会った小規模な避難所です。必要、といわれた食料や生活用品をお届けしたところ、中に入っていたマグロ缶をみて、「生きていてよかった」と60代の漁師さんが涙を浮かべてお話になりました。

狭い道を慎重に4トントラックを進めてくれた(上写真)配送会社の30代の男性運転手は、その光景を見て「この仕事をしていて、本当によかった」と話してくれました。



4トントラックは、狭い道路に阻まれ、避難所の手前10メートルで停車しました。最後は避難所の皆さんが軽トラに積み替え、ガソリン節約のため坂を手押して避難所にお届けしました(上写真)。

Civic Forceは、津波被害が甚大な三陸地域で重点的に事業を展開しています。

最低限の避難生活を送ることができるよう、継続して支援物資の大規模調達と配送事業を展開しています。4月に入ってからは、小規模な避難所や、民家等に自主避難している方々に支援が行き届いていない現状に対処するため、きめ細やかなニーズのヒアリ

ングと物資の配送をしてきました。南三陸町内の入谷公民館や石浜集会所、馬場中山センターなどに必要とする物資を迅速に提供しています。

入りくんだ気仙沼湾に浮かぶ、東北最大級の有人離島「大島」もその一つです。1,121世帯、3,251人が暮らす島にとって、旅客船やカーフェリーは「国道のような存在」です。津波の被害によって、大島と本土を結ぶ7隻の定期船舶が全滅し、支援物資が行き届いていないことが、4/15のCivic Forceによる現地調査によって確認されました。以降、毎日4トントラックで大島の災害対策本部が必要とする物資を輸送し、救援用の貨物船に積み替え届ける事業に展開しました。5/10現在も、食料や日用生活品のほか、次の災害に備えた備蓄品を毎日お届けしています。

3/12以降、これまでに被災地にお届けした物資は、下記の通りです。宮城県気仙沼市、南三陸町、石巻市のほか、岩手県大船渡市や陸前高田市に、Civic Forceやパートナー団体が荷受する配送をしました。

#### ■総量：346トン

-4tトラック140台・10tトラック1台

-食料約83万食分、衣料約18万点分を含む

#### ■到着品目：計501品目

-食料：約185品目

-衣料：約62品目

-消耗品：約130品目

-設備用：約124品目

#### ■物資協力企業：137社(無償提供社数)

### 「最高に気持ちいい」-お風呂ニーズに応え続ける

避難所における生活改善・衛生改善の一環としてCivic Forceが大工さんたちと取り組んできた手作りお風呂の設営事業は、現在も南三陸町内で活動を続



けています。4/11～5/10の間にも、寄木地区でお風呂（上写真）を、田の浦地区でシャワーユニットを、そして砂浜地区の老人保健施設「歌津つつじ苑」では、お風呂・シャワー機能を設営しました。これで合計6カ所を設営し、日々湯沸しシステムのメンテナンスや、地元の皆さんが自主的に運営できるための引き継ぎをしています。

箱物は作って終わりではない、と考えています。地元の皆さんと一緒に作り、一緒に運営し、最後は地元の皆さんたちだけで湯沸しから入浴時間の管理等までを運営していただけるようにすることが、生きる支援のあり方だと考えています。それぞれの地区の入浴ニーズや設置場所に依りて、創意工夫しながら設置したお風呂ですので、現在は、運営しやすいように器具の入れ替え等をしています。

田の浦地区で個室式のシャワーユニットを設営したあと、最初に汗を洗い流した80歳前後のおじいさんは、一言「最高だ！」。

南三陸町は、現在も断水が続いています。自衛隊のお風呂サービスも徐々に提供頻度が下がるなか、車で30分かけて郊外のスーパー銭湯に行くことのできない方にとって、Civic Forceが地元の皆さんと設営したお風呂は愛用されています。

これからも地元のお風呂になれるよう、地道に引き継ぎをしていきます。

### 生活改善フェーズに入った三陸地域

本来は短期間しか滞在することを想定していない公共施設等の一次集団避難所での暮らしは、5/11で60日を迎えました。5/10現在、気仙沼市には4,334人が、南三陸町には5,741人が一次避難所で集団生活を続けています。その意味では、依然として「緊急支援」のフェーズにあり、物資やお風呂等の避難生活を支える活動に終わりはありません。



現在のフェーズ（Civic Force 認識）

一方で、一次避難所から行政が借り上げる宿泊施設への移転や、行政区外への避難等により、一次避難所に暮らす方の数は減少傾向にあります。併せて、市町内や近郊の各種店舗が営業を部分的に再開しており、その動きを妨げることをないよう提供する物資の品目や量、提供先については、これまで以上に細心の注意を払って取り組むべき段階に至っています。今後、支援物資の配送については、必要なものを必要な先に限定的に提供していく計画です。

### 生活改善のための「生活動線」の回復

「大島の国道」として大型カーフェリー「ドリームのうみ」が4/27に1日8往復の予定で就航しました。これによって、本土に病院や買い物に行く車や、まとまった食料や医薬品を運ぶ支援トラックや仮設住宅の建設資材、工事車両が行き来するようになりました。島からはがれきやゴミを本土に運びだせるようにもなりました。利用状況は、5/10時点で毎日毎便ほぼ満車で運航しています。人とモノの往来が回復し、島の復旧が加速しています。





なお、Civic Forceはこの事業について、広島県を仲介して、大島汽船と広島県江田島市をつなぎ、就航を早期に実現するための初期費用および初月の燃料費等、合計約1,700万円を負担して実現しています。

### ■東北地方7箇所でも角的な生活再建事業を展開

Civic Forceは、4月からパートナー団体との共同事業を精力的に展開しています。平時よりCivic Forceのパートナー団体として災害時に専門性を発揮する団体とともに、緊急支援では行き届かなかった心のケアや、外国人支援のほか、被災地における支援活動を効率よくするための革新的な試みを開始しています。岩手県、宮城県のほか、山形県、福島県で広く継続的に被災者支援事業を展開する仕組みです。

第一フェーズとして、各種医療サービスや動物保護など特定分野に特化した支援団体のほか、被災地支援の仕組み構築を担う団体など、以下の7団体と協働事業を展開しています。具体的な活動内容は、今後Civic Forceのホームページで随時お伝えします。

### □ Civic Force パートナー協働事業 □

#### ■難民支援協会×Civic Force

国内難民が「第二の故郷、日本に恩返しをしたい」と立ち上がり、岩手県の海岸地域で日本人とともにボランティア活動をしています。併せて女性の悩み相談にのる事業を日本助産師会岩手県支部等と連携して展開しています。活動地域：岩手県大船渡市、陸前高田市

#### ■ピースボート×Civic Force

石巻市と緊密に連携をとり、個人ボランティアの力を組織の力として被災者支援を行うピースボートの事業に協力しています。ボランティアの採用から調整の専門性を活用しています。活動地域：宮城県石巻市

#### ■オン・ザ・ロード×Civic Force

キャンプ場をボランティアの活動拠点として、被災者の生活再建のためのボランティアの採用、派遣を組織的に展開しています。活動地域：宮城県石巻市

#### ■save the dog×Civic Force

ペットを置いて避難した被災者にとっては、家族の一員をなくした痛みと同じです。置き去りにされたペットを保護し、飼い主を探す事業にCivic Forceは協力しています。活動地域：福島県南相馬市等

#### ■被災地NGO協働センター×Civic Force

岩手県遠野市を拠点に、岩手県海岸地域へのきめ細やかな支援活動をする被災地NGO協働センターに協力しています。活動地域：岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市、山田町、大槌町

#### ■生活クラブやまがた生活協同組合×Civic Force

原発事故により福島県から避難してきている方へのケアや、被災地への物資受入れ、人材派遣などの中継・調整拠点をつくる事業に協力しています。活動地域：山形県

#### ■NPO愛知ネット×Civic Force

岩手県大船渡市を中心に心的外傷後ストレス障害（PTSD）を予防するために、臨床心理士などが巡回ケアを行う事業に協力しています。またトレーラーハウスを利用したカウンセリングルームを開設します。活動地域：岩手県大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町

今後展開する予定の第二フェーズでは、被災者自身が組織する団体やこれまで現地で活動していた団体とともに活動し、効率的な活動を後押しする計画です。



## 「いつまでも被災者ではられない」

Civic Force では、復旧・復興にむけた現地の前向きな動きをさらに積極的に支援していく計画です。大島の女将さんが、島で活躍するボランティアグループを見て「いつまでも被災者ではられない」と言うように、今後は、気仙沼市大島において、地元ボランティアグループとともに、島の産業復興について議論をし、活動を展開します。さらに気仙沼市唐桑において地元 NPO と連携し、地域の産業復興に貢献できるよう調整しています。

また、被災者個人が生活再建に踏み出すにあたって障壁になる生活情報の一元的提供と相談と、仮設住宅以外の居住空間の提供を進めていきます。生活情報については、国・県・市レベルの情報を一元的に管理し、相談できる先がないことが、被災者の生活再建を妨げている、と認識をしています。今後、早期に情報提供できるよう進めていきます。

居住空間については、気仙沼市大島と南三陸町に、トレーラーハウス 20 台とコンテナハウス 20 台を 5 月下旬以降に設置するよう動いています。大島では仮設住宅に入ることを望まない方への仮の居住空間として、南三陸町では震災以降ほぼ毎日働き詰めている消防や警察、教員や行政職員が安らげる空間として活用いただく予定です。※応急仮設住宅に関する情報は、<http://civic-force.org/activity/activity-375.php> をご覧ください。

上記の取り組みを行うための調査活動も並行して実施しています。4/22 から 4/25 には学識者 2 名による現地調査を実施したほか、Civic Force のコーディネーターによるニーズ調査を行っています。

## 寄付金執行状況のご報告

5/10 時点で、約 4.4 万の個人と法人の皆さまから、

合計約 8 億 3 千万円のご寄付をいただいています。改めて皆さまのご理解とご支援に御礼申し上げます。（ご支援いただいている法人のリストは、<http://civic-force.org/activity/higashinihon/cat36/> でご確認いただけます）

4 月末日現在、そのうちの約 2 億 5,668 万円を執行させていただきました。

具体的には、緊急支援物資の購入と配送に 1 億 7,397 万円、手作り風呂の設営関連に 979 万円、大島への大型カーフェリーの就航にかかる費用のうち 652 万円を緊急支援活動として活用しました。7 つのパートナー団体と実施している多面的事業については、費用の一部として 3,240 万円を、トレーラーハウス 20 台の購入・運搬には、3,100 万円を、大島や唐桑での産業復興に関連して 54 万円を使わせていただきました。活動にかかる人件費や実費については、事業共通の諸経費 246 万円を除き、各事業費の中に計上しています。次回のマンスリー・レポートでも、執行した金額の内訳をご報告させていただきます。尚、全ての寄付金の活用においては、都度理事会で承認しているほか、監事により適正な意思決定と会計業務が行われていることを確認しています。

※4/11 に発行した 1 回目のマンスリー・レポートは、<http://civic-force.org/news/cat37/> からご覧いただけます。ホームページ (<http://civic-force.org/>) や twitter では毎日最新の活動状況や現地の様子を報告しています。また YouTube で特別動画の配信を、facebook で英語の情報発信をしています。



@civiforce



<http://www.facebook.com/civiforce>



<http://www.youtube.com/user/civiforceorg>